

# クローバーつうしん

CLOVER TIMES



2019年10月1日 第46号

公益財団法人 金森和心会

クローバー子供図書館 / 発行

〒963-8851 郡山市開成6-346-1

TEL/FAX 024-932-2118

<http://www.k-washinkai.or.jp/clover/clover.html>



## 「私と高校野球」

塙 裕之

私は、聖光学院野球部OBで二〇〇一年夏の甲子園初出場したときの選手です。

今年二月に秀和システムより「負けてみる。」という本が発売されました。いかにして、聖光学院はここまで強いのかその舞台裏を完全ノンフィクションで紹介しています。

昨年三月に突然、一本の電話がかかってきました。その相手は、この本書の著者でありスポーツフリーライターの田口元義さんでした。お互い初対面だったが「今度、聖光の本を出そうと思っていて歴代の中心選手を取材しているんだけど塙さんを取材してもいいですか？」という内容でした。田口さんは、福島市出身で元高校球児、聖光の魅力にハマリずっと取材しながら追いかけていたと言っていました。受話器の向こうから熱意を感じ、私で良ければ二つ返事で引き受けました。

取材当日、私が勤務する会社に来てもらい取材を受けることにしました。田口さんは、ICレコーダをセットして取材スタート。私は正直、へたなことは言えないと思いつつも張ってしまうカミカミでした。ただ、いろんな質問を受けましたがその当時のことを事細かく覚えていた自分に驚きました。試合内容やチームの雰囲気、自分の成績などほとんど覚えていました。本書の三四七ページに「多くのアスリートで共通して言えるのは卓越した記憶力がある」と書いてあります。私もアスリートだったのかと勝手に勘違いをしています。結局、取材は三時間もかかってしまったがとても楽しく高校生の頃に戻れたそんな時間でした。

本書の前身は、各世代のストーリーが書いてあります。私たちの世代は、七四ページからはじまります。新チームが始動してから決めたことは、「理不尽な上下関係の廃止」です。私達の世代でやめよう、野球部の問題は全部みんなが解決していこう。そうじゃないと甲子園にいけない。チームは自立していました。

しかし、まだ高校生、甘い所はたくさん出てきます。斎藤監督は人間性を大事にする方です。「克己」この言葉を良く使っていました。意味が分からず図書館で調べたの

を覚えています。試合の前に、いかに自分を制することができるか、いろんな言葉でチームを奮い立たせてくれました。

私の中で一番苦しかった練習があります。それは本書の七七ページで出てくる三キロ走です。タイムは一分五分以内、私も含めてレギュラーのほとんどが一分五分を切ることで出来ず斎藤監督は激怒しました。「ふざけんじゃねえ！なんで控えが走れておめえらが走れねえんだ。もう一回やる。今度、一分以上かかったらベンチから外す。」即座にスタートの笛が鳴りました。すると全員が設定タイム内に走り切ることができました。「なぜ走ることができたのに最初からやらないのか」それは危機感が足りないからだ。できるのにやらない「そういう甘い考えとか弱い心が大事な場面で出るんだぞ。」とずっと言われていました。

三年生になり最後の夏の大会メンバー発表の日、物々しい雰囲気でした。私たち三年生だけで三〇人いましたので必ずメンバーから外れるのは分かっていました。私は「三番」を頂きましたが涙が止まりませんでした。メンバーに選ばれた者。選ばれなかった者、全員が涙を流し抱き合い「オレ達に分まで頑張れよ」、「甲子園に連れてってくれよ。」未だに思い出すと泣きそうになりますね。

初の決勝戦進出、相手は日大東北でした、延長十一回表に四点を奪われ、その裏に五点を奪いサヨナラ勝ちで甲子園初出場を決めました。みんな嬉し涙を流し、斎藤監督も泣いていました。

本書の一五ページで「不動心」という言葉が出てきます。「どんなに嫌なことがあっても他人のせいにはしないで動じない心を養う。」聖光学院の代名詞だと思います。斎藤監督が言い続けてきた沢山の言葉が選手一人一人に伝わりチームが成長し最後の最後に実を結んだと思います。

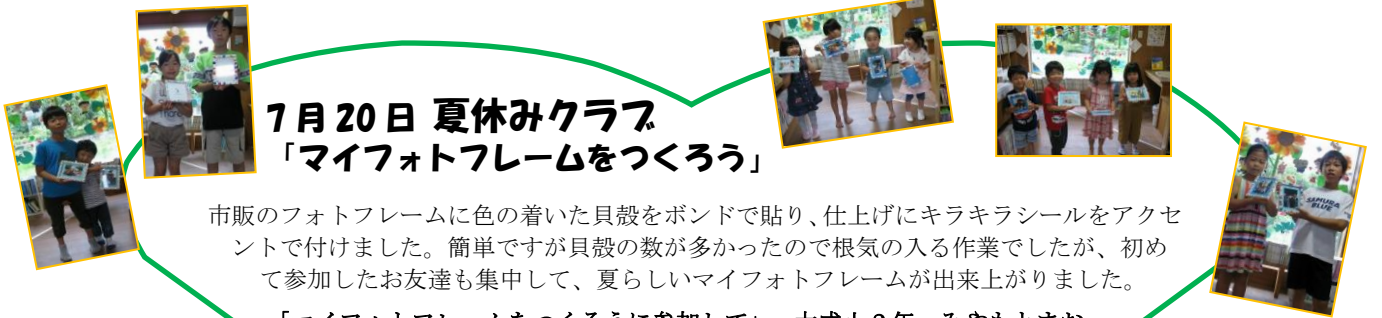
私にとって高校三年間は人生の財産です。どんなことが起きてても、動じない、謙虚に最後まで諦めない心。社会で生き抜く力を身につけられたと思います。

最後に、この本は私にとって人生の羅針盤です。



「負けてみる。」

著者 田口元義 / 著者 斎藤和秀



## 7月20日 夏休みクラブ 「マイフォトフレームをつくろう」


市販のフォトフレームに色の着いた貝殻をボンドで貼り、仕上げにキラキラシールをアクセントで付けました。簡単ですが貝殻の数が多かったのが根気の入る作業でしたが、初めて参加したお友達も集中して、夏らしいマイフォトフレームが出来上がりました。

「マイフォトフレームをつくろうに参加して」 大成小2年 みやもとまお

わたしは、はじめてフォトフレームをつくりました。  
一ばんたのしかったのは、貝がらや、キラキラシールをはるのが一ばんたのしかったです。  
またちょうせんしたいです。  
いいけいけんになりました。

## イベントの おしらせ

\*秋の読書週間

- ①「おたのしみ会」 10/18 
- ②「おすすめの本の貸出」 10/29~11/8
- ③「貸出無制限」 10/29~11/8

\*針生まつり 10/20

図書館コーナーでは、**オバケのバッチ**を作ります。みんな、あそびにきてね!


\*第25回「子ども講座」

(クリスマス工作) 11/16

\*本のリクエストポスト 12/6~12/21

\*「ワークショップ」 12/7

\*冬休み「貸出無制限」

12/21~1/7 



ヒノキの間伐

材せんすに自由に絵を描いて、マイせんすを作りました。せんすパーツ3枚とワッシャーを重ねて穴に留め具を差しこんで固定するところがみんな緊張していましたが、説明を良く聞いてくれて、楽しく話しながら夏らしい絵を描いていました。

「マイせんすをつくろうにさんかして」 開成小1年 とよただいち

ぼくは、ともだちときょうりゅうのえをかきました。ざいりょうはうすいきでした。いいにおいでした。あおぐとすずしいです。せつめいをきいてつくったので、うまくできました。あついなつもマイせんすがあればたのしいきぶんです。たのしかったです。



## 7月24日 夏休みクラブ 「マイせんすをつくろう」



## 夏休み 貸出無制限


7月23日~8月22日

たくさん本を読んだおともだちに、オススメの本をきいてみました。

開成小2年 ながくらあいこ

わたしは、クローバー子供図書かんでいろいろの本をかりました。その中でもおもしろかった本は、あんびるやすこさんが書いた「ルルとララのきらきらゼリー」です。たくさん、わくわくして読むことができました。

「ルルとララのきらきらゼリー」

あんびるやすこ/作・絵  
岩崎書店 

## 9月6日 コカリナくれよんコンサート

始めて音楽の企画をしましたが、53名の参加者で「コカリナくれよん」のみなさんも驚いていました。コカリナの演奏に合わせて歌を歌ったり、カスタネット等でリズムをとったり、とても楽しそうでした。絵本の朗読や最後にコカリナの体験にも挑戦して、すてきな体験だったと思います。



コカリナを聞いて 富田西小 3年 藤森り夏

わたしは、はじめてコカリナを聞きました。とてもきれいな音でした。コカリナが木で出来ているとは思いませんでした。アイアイの歌をみんなで歌いました。お話も楽しかったです。また聞きたいと思いました。

## 町探検



7月2日に毎年恒例になっている郡山市立開成小学校2年生4グループが生活科の学習「町探検」で元気に当館を訪れました。大変人気の施設だったらしく、9月20日には2学年全員93名が各クラスに分かれて再び訪れてくれました。図書館の歴史や貸出冊数、建物の形までたくさんの質問を受けました。放課後や休日にご家族と一緒にまた来て下さいね。

開館日のごあんない

火・水・木・金  
土(第1・3・5)

午後1時~6時  
※月末は休館します。

編集後記

6月に雑草レンジャーにはげまされ、元気に花を付けていたクローバーは、猛暑で少し疲れた様子でした。種から育てていたヒマワリも下を向いてしまい、さびしいクローバー畑でした。最近では朝晩涼しくなり、クローバーも少しずつ元気を取り戻し、「町探検」で来館した開成小学校2年生の元気なお友達に「あ〜！四つ葉!」「すごい!」と喜んでもらえました。読書の秋を楽しんで下さいね。

